

第26回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成22年10月28日(木) 午前10:00~11:20
2. 開催場所 箕面市船場東2-5-47 COM3号館5階 COM倶楽部会議室
3. 委員の出席 委員総数 10名
出席委員 6名
出席委員の氏名 稲垣千秋、牧野直子、井上光央、桑田政美、
中村 保、須貝昭子
以上6名
放送事業者側出席氏名 岡田 堅治(取締役)
大平麻由美(編成課長)
野間 耕平(編成課員)
4. 議題 1) 番組 空中図書室
2) 番組 ゆずる体操
5. 議事の概要 岡田取締役が合併後の経営状況の説明後、
稲垣委員長が議長となり、委員6名の審議となる。

6 . 審議内容

1) 番組

(1) 事務局より番組説明

今回聞いていただいた番組は、「空中図書室」と「ゆずる体操」です。「空中図書室」は、2009年4月に放送を開始した朗読番組です。毎週土曜日夜7:30から8:00までの30分間、再放送は金曜日の午後3:00から。文学作品の放送を企画した目的は視覚障害者のかたや、ご高齢のかたで小さな文字を読むのがつらいといったかたたちにラジオで文学作品をお届けできればと思い、また、なかなか普段の生活で本を手にとって読む機会がないというかたもたくさんいると思われます。そういったかたがたにも文学作品を耳で聞くのは良い機会になるのではと、多くのかたに文学作品に親しんでいただきたいという意図があります。

実際の朗読は、箕面市内で音訳ボランティアをされている「ささゆり声の会」というグループが行なっています。広報紙の音訳版制作、市立図書館での対面朗読、文学作品をテープに録音する録音図書などを行なうボランティアグループで、市長表彰も受賞され、長年の実績をお持ちです。番組の企画をお伝えしたところ、ぜひ協力したいと言っていただきボランティアで番組制作にご協力いただいています。著作権が切れている作品を主に選んで、これまでに、宮沢賢治、芥川龍之介、太宰治、菊池寛などの作家の作品を中心に朗読していただいています。

「ゆずる体操」は、昨年の番組審議会でも、箕面小学校にラジオ体操の講師が来られた取材番組を聞いていただき、そのときの「箕面版のラジオ体操」を作ってみては、というご意見をもと、「たきのみち ゆずる」をフィーチャーして社会体育指導士の先生の監修で「ゆずる体操」を作りました。開局15周年記念・会社合併記念として制作し、10月1日の開局記念式典でご披露し、WEBでも画像を配信、ラジオでも1日2回放送しています。

今後、箕面市内に出かけて体操を広め、ラジオを聞いて体が動かせるというところまでPRできるよう頑張ります。昨日も、「タッキーたんけん隊」のコーナーで、ゆずるの着ぐるみを借りて、幼稚園と保育所に行ってゆずる体操を広めてまいりました。スポーツカーニバルのなわとび大会の準備体操や校区運動会でも使っていただけるようプロモーションしています。また、先日のゆるキャラサミットでも「ゆずる体操」が披露されたと聞いています。地道な活動になるかと思いますが、箕面のラジオ体操として広めていけるようスタッフ一同頑張っています。

(2) 審 議

委 員 長：それでは、審議にうつります。まず「空中図書室」について意見を頂戴したいと思います。

委 員：今回のような童話的なものと堅いものと、紹介されているのはどちらのほうが多いのですか？

事 務 局：耳で聞くにはわかりやすい内容がいいのではないかと方針をシフトしています。童話ですと、子どもが聞いてもわかりやすいし、大人が聞いても、この話読んだことあるな、と接しやすいのではないかと、やや童話にシフトしています。ただ、作品の内容によっては大人向けの作品でも子どもにも聞きごたえがあると判断した場合は、放送するようにしています。

委 員：30分、読み切りですか？連続しますか？

事 務 局：3回に分けて放送、というケースが何度かあります。

委 員：番組タイトルは、図書「館」ではなく図書「室」には何か意図があったのですか？

事 務 局：ラジオのアンテナを日本語で「空中線」といいますが、ラジオで放送するので「空中」を使いました。そして、夜、決まった時間になると空に魔法の図書室があらわれて、そこから朗読の声がひとりで聞こえる...というイメージでタイトルに意味を持たせています。また、図書「室」の意味ですが、図書館は出入りが自由なパブリックなイメージですが、図書室は大きなお屋敷に個人の本がたくさん蓄えられている印象。どちらかという「図書室」のほうがかな、と。

また、「ささゆり声の会」は音訳グループで、音訳と朗読の違いは、音訳は抑揚をつけずに作品を正確に音にして伝えていっしょにやります。今回ラジオでみなさんに聞いていただくにあたって、ちょっと抑揚は付けてくださっても結構ですということを事前にお伝えしています、

委 員：男性と女性で雰囲気分けたり、登場人物 A と B で声色分けたり、ということも聞く人のことを考えるとやってみてはいいのでは？

委員：私も視覚障がい者のかたに聞いてみたのですが、「空中図書室」はよく聞いているとのことでした。良さは変に録音者の思いが入らないことだ、とおっしゃっていました。「ささゆり声の会」は録音技術も高い、全国的にもレベルも高いと思っていますが、ほんとうに必要な人に届いているのか、ということが気になりました。どういったかたちでPRされているのか、またどんな作品にニーズがあるのかは把握しているのか。

事務局：「ささゆり声の会」が作成しているもみじだより音訳版を配布するときにお知らせする、ということはあるのですが、図書館との連携などはまだこれからという段階です。

去年は日曜夜 7:30～の放送だったのですが、ちょうどNHKで同じ時間帯に朗読番組があり、変えてほしいという声を受けて放送時間を変更しました。

委員：本の作者がどんなひとなのか、いつの作品なのかといった説明がなくはじまったので、説明があるともっと分かりやすい。

委員：来年は「地デジ難民」もたくさん出るでしょうから、映像ではなく耳で音楽以外のゆっくり、落ち着いて作品を楽しむ番組というのは喜ばれると思います。良い番組だと思いますので、これからも続けてほしいです。

委員長：さきほどの話にもありましたが、最近テレビ番組がうるさくて、ラジオに切り替える、ということがあるんですよ。そういった復古的な流れの中で、タッキー独特の番組の構成をみなさんに聞いていただく、と。本離れ、ということもあるので、耳から自然に入った中で頭に入るといような本をみなさんに語る、と言いたことも必要な、と感じています。そういう番組ができるようでしたら、ぜひよろしくお願いします。

では次の「ゆずる体操」に移ります。先生がたのご意見から実現したという経過もございますので、何かまたご意見ございましたらどうぞ。

委員：有難いな、と思います。本当にパッと行ったものを実現していただいて。また、きっちりと朝と夕方、帯で放送している。実は、CDで聞いて、やってみようと思ったのですが、全く分からなくて、DVDにさせていただいたので、見ながらやってみたのですが、「Y・U・Z・U」はできたのですが、それ以外は意外と難しかったです。が、オリジナルのものが出たというのはたいへん良いことですし、いろんなところで機会をつくっ

て頂いてどんどんやっていただければと思います。ラジオ体操普及隊みたいなチーム編成をしてどこでも2組3組でていけるようなボランティアのグループもあるといいと思います。

委員：お年寄りのかたが体操するにはちょっとしんどいんじゃないかと思いますが。

事務局：社会体育指導士の泉あけみさんにつくって頂いたのですが、泉さんは、高齢者中心の体操教室をたくさん持っていることもあり、高齢者もできるということで、おつくりいただいたものです。たとえば首を回す運動、前屈のような運動を取り入れてみては、という提案もしてみたのですが、それは高齢者にとっては非常に危ない運動だということを指摘されています。運動科学的な見解から考えて頂いているのですが、いろいろと課題はあると思っています。ラジオ体操として広めていくには、もっとやさしくしたほうが良いかも、というのは正直な感想です。短めのバージョンをつくるということも必要なのかと。

委員：ご高齢のかたもいちど覚えれば、家に帰ってタッキーを聞きながら孫と一緒に体操できる、ということがあるかもしれない。

事務局：DVDを箕面市内の保育所・幼稚園にお配りして、高齢者の皆さんへは市健康増進課を通じてお渡ししています。

委員：みのお市民活動センターでもタッキーを流しているのですが、毎日定刻に「ゆずる体操」が流れてくるので、実際に体操してみてもいいかな、と思うようになりました。

委員長：分かりやすいのは大事。解説というか、図で示したものを番組表に入れるのもいいですね。では、その他の番組についての審議に移ります。日頃の番組について、フリーでお話ください。

委員：箕面の地名を誤読することは気をつけてほしい。箕面の放送局としてやっているのに、箕面のことをあまり知らなさ過ぎるのはどうか、という意見がありました。あと、たとえば土曜日放送の番組で情報を読み上げても、市役所などは土日祝日つながらない、ということがある。分からずに電話してつながらず、もうええわ、となってしまうてはよろしくない。ちょっとした配慮がないのではないか、という意見があった。

事務局：改善します。

委員：番組の中で、どれが一番人気か、どれが看板番組かと聞かれたら、なんと答えますか。

事務局：番組表で濃い色で示しているのが看板番組です。

委員：そのなかで一番は？

なぜこんなことを言うのかというと、ないのは問題ではないかと。

No.1 番組を育てませんか？

タッキーといえばこれだ、という番組を打ち出してもいいのではないかと。あと、タッキーは聴取データをお持ちですか。もし無いようであれば、大学生のフィールドワークとして上手く巻き込んでやってみては。

事務局：データについては、市の満足度調査での年代別などのデータがあります。

委員：先ほど学生といったのは、学生に興味を持ってもらう、ということに加えて、いろいろな場で発表するかと思うので、そこで広めてもらう、ということも考えられる。

委員長：これからも経営努力していただいて、良い番組をお願いします。

これで閉会します。長時間ありがとうございました。

7 . 審議機関の答申または改善意見に対して措置および年月日

なし

8 . 審議機関の答申または意見の概要を公表した場所における公表内容、方法

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://fm.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 22 年 10 月 28 日

箕面 F M まちそだて株式会社

番組審議会